

麻酔科

《概要》

当院麻酔科は、かつては大学医局からの医師派遣を受けておりました。しかし、医師不足のあおりを受け、平成20年度初めに常勤麻酔科医がゼロとなり、以後公募に切り替えて現在に至っています。平成20年9月、小林俊司医師が公募による初の常勤麻酔科医として赴任し、以後少しずつ常勤医が増加しました。平成22年度には常勤医7名、非常勤医1名、後期研修医1名となり、麻酔科業務のほとんどを常勤スタッフだけで行えるようになりました。平成23年度は、常勤医のうち東浩司医長が退職し、それまで非常勤であった荒井章臣医師が常勤医になりました。また後期研修医として、森本正昭医師が加わりました。森本医師は当院で前期研修を終え、そのまま後期研修に上がった初の人材です。平成23年度麻酔科スタッフの内訳は、以下の通りです。

常勤医7名；久場良彦（診療局長兼医療安全室長）、小林俊司（中央手術室長兼麻酔科部長）、仲谷憲（部長）、荒井章臣（副部長）、足立匡司（医長）、米本紀子（医長）、井戸和己（副医長）

後期研修医2名；土井浩義、森本正昭

常勤スタッフはベテラン揃いの布陣で、その多くは10～15年以上のキャリアを持っています。常勤医のうち5名は、麻酔科標榜医・日本麻酔科学会専門医もしくは指導医であり、2名が麻酔科標榜医です。現在の麻酔科スタッフは、様々な環境で経験を積んできておりますので均質ではありませんが、それが逆に強みにもなっています。手術麻酔以外にも、ペインクリニック、集中治療、救急、循環器、呼吸器などのサブ・スペシャリティを持つスタッフ、研究や教育業務の経験豊富なスタッフなどがおります。

平成23年度の年間総麻酔管理件数（手術室内のみ）は2,446件と、平成22年度の2,573件より減少しました。その中で全身麻酔は2,267件でした。当麻酔科は原則として、依頼のあった手術麻酔は予定、緊急の全てを受け入れております。また上記統計には含まれていませんが、手術室外でも、血管造影室で行う、脳神経外科の脳動脈瘤に対するコイル塞栓術や、歯科口腔外科の動注管設置術などの麻酔を行っています。

平成22年度以降、麻酔科常勤スタッフの増加に伴い、麻酔科業務は待機も含め、ほとんど外注せず常勤医のみで行っています。また麻酔の術前・術後回診および同意書の取得はほぼ全症例に行い、質の高い周術期管理を心がけています。術後回診の際は、全身状態のチェックはもちろんのこと、数値化された指標を用いて疼痛の評価をし、また患者様の麻酔に対する意見を拾うなどしています。

これまで当麻酔科では院内からの依頼にこたえ、例えば「周術期における抗凝固、抗血小板薬等の投与に関する指針」等、様々な指針を出してきました。今までに蓄積された指針等を一カ所にまとめて欲しいという要望にこたえ、病院イントラの「各種マニュアル」にまとめて掲示し、院内のどこからでもすぐに参照できるようにしました。

エコーガイド下の神経ブロックは、標準的な術後鎮痛の一つになっています。また必要に応じ、持続ブロック用のカテーテルを留置し、術後持続的に疼痛コントロールを行うことも可能になりました。

平成23年度秋頃より、麻酔科は集中治療室の運営にも協力することになりました。集中治療室の患者管理体制は主治医制のままですが、日勤・当直帯の医師常駐業務の一部を麻酔科も担うことになりました。

研修医、若手医師の教育に重点を置くことや、救急救命士の挿管実習に貢献することは、平成20年度からの目標でしたが、平成23年度には、2年目研修医1名、1年目研修医7名、救急救命士の挿管実習生4名、挿管実習再教育者7名を受け入れることができました。麻酔科では毎週、論文抄読会、および問題症例検討会を開催し、最新の医学情報に接するとともに、各自が勉強を怠らないよう努めています。また後期研修医を中心として、常に臨床研究を行うよう指導するとともに、麻酔の主要学会では、必ず演題を出せるようにしています。

また、麻酔科医は次のような、院内の様々な診療部門、ケア・チーム等に参加しています。

＝緩和ケアサポートチーム＝

緩和ケアサポートチームは、2009年4月に、多職種構成で院内横断的な診療支援グループとして発足しました。現在の職種構成は、医師(麻酔科、外科、診療内科)、看護師、薬剤師、栄養士より成っています。活動は、週一回のラウンド(火曜日の午後)を基本として、随時コンサルトを各診療科から受けています。2011年度は92症例のコンサルト依頼があり、その依頼内容の内訳は、身体問題 56例、このころの問題関連 36例でした。日常診療以外では、年2回のりんくう緩和ケア講演会と厚生労働省認定の緩和ケア研修会を開催しました。講演会は、出水クリニック 出水 明先生【在宅緩和ケアと地域連携】、国立病院機構大阪医療センター 里見 絵里子先生【症例から学ぶがん患者さんの痛みとマネジメント】の御講演を頂きました。第3回りんくう緩和ケア研修会は、院内・院外の多くの方々の御協力を頂き、9名の医師と10名のメディカルに修了証書を渡すことが出来ました。(仲谷憲部長、米本紀子副院長)

＝ペインクリニック＝

ペインクリニックでは麻酔の疼痛管理を応用し、様々な難治性疼痛、慢性痛を治療していきます。対象疾患としては、帯状疱疹後神経痛、退行性骨関節症が大半ですが、脳卒中後痛、遷延する術後痛、局所複合性疼痛症候群 CRPS、三叉神経痛、四肢血行障害性疼痛(レイノー症候群, ASO)、癌性痛なども含まれます。薬物および神経ブロック療法を併用し、痛い期間の短縮と日常生活の改善を目的としますが、完全な治癒は望めない場合も多く患者教育が必要です。神経ブロック療法としては、外来で超音波ガイド下に各種末梢神経、神経根、肩関節周囲、硬膜外ブロックなどの他、透視下の神経根、関節内注入を行います。癌性痛にはCTガイド下に腹腔神経叢、上下腹神経ブロックや、くも膜下フェノールブロックなどの神経破壊も行います。交感神経節破壊や脊髄刺激療法が必要な場合は大学病院と連携します。痛みと中枢性感作の機序が徐々に解明されつつあり、使用できる鎮痛薬も増えてきましたが、難治性慢性痛には精神心理的アプローチ、リハビリテーション、社会的側面など多方面からの連携が必要と考えます。(米本紀子医長、古家仁奈良県立医大教授)(近畿大学医学部麻酔科等と連携)

＝呼吸ケアサポートチーム(RST)＝

呼吸ケアサポートチーム(Respiratory care Support Team:RST)は、2010年度より発足しました。麻酔科医師、臨床工学士、理学療法士、看護師でチームを組み、院内の人工呼吸器を装着されている患者さまに対し、主治医とともに呼吸ケアを行っています。具体的には、より適切な人工呼吸の設定、肺理学療法、リハビリテーション、栄養管理など集学的にケアを行うことで、人工呼吸器早期離脱をはかり、患者さまの予後の改善、ひいては、ICU 滞在日数、入院日数の短縮を目的としております。このチームの主役は、臨床工学士、理学療法士、看護師で、麻酔科医師は補助的役割に過ぎませんが、対外的交渉や、まとめ役に徹し、すこしでもチームの仕事がしやすいように、頑張っています。(荒井章臣副部長)

＝災害派遣医療チーム(DMAT)＝

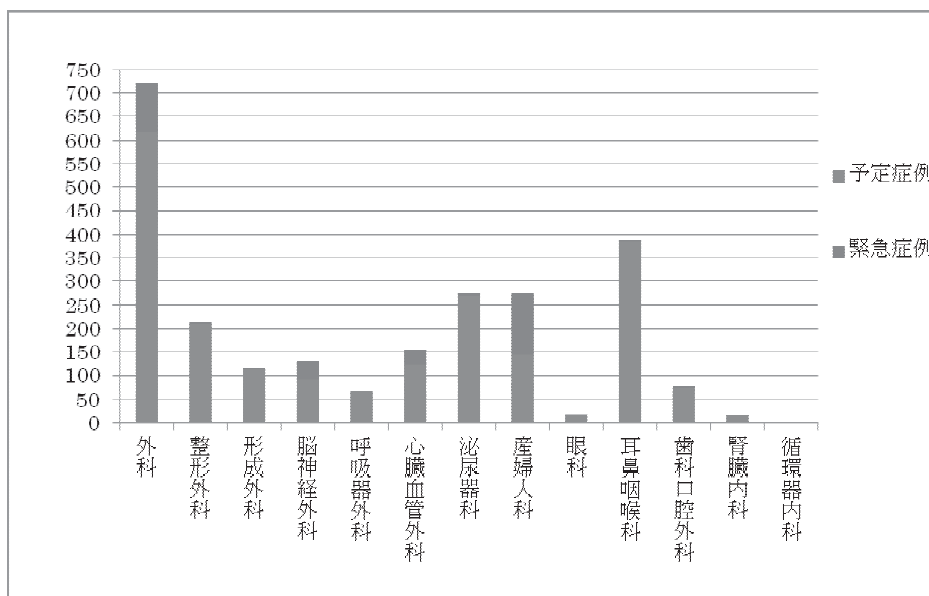
DMATとは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team の頭文字をとって略してDMAT(ディーマツト)と呼ばれています。医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。阪神・淡路大震災について、初期医療体制の遅れが考えられ、平時の救急医療レベルの医療が提供されていれば、救命できたと考えられる「避けられた災害死」が500名存在した可能性があったと後に報告されています。この阪神・淡路大震災で災害医療について多くの課題が浮き彫りとなり、この教訓を生かし、各行政機関、消防、警察、自衛隊と連携しながら救助活動と並行し、医師が災害現場で医療を行う必要性が認識されるようになりました。今回の東日本大震災でも各地のDMATが現地に赴き、医療活動に従事しました。当院でも医師、看護師、事務職員が講習を受け、DMATの資格を得て災害時に幅広い形での医療支援を行えるように備えています。(足立匡司医長)

平成23年度の当院麻酔科は、基盤をより強固にし、その仕事内容を質的に高めることができたと自負しております。また、私たち麻酔科医が非常に働きやすい環境、雰囲気を実現しており、さまざまな医療スタッフや事務の方々、市の関係者の皆さんには、心から感謝したいと思います。平成24年度以降は、基本である手術麻酔の質と量を高い水準で維持するとともに、病院の運営方針に従い、必要があれば更に広範囲の分野で、麻酔科の職責を果たしていこうと考えております。

《実績》

科別麻酔症例数(2011.4.1～2012.3.31)

	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	呼吸器外科	心臓血管外科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔科	腎臓内科	循環器内科	合計
予定症例	617	209	113	92	68	123	268	145	16	386	74	17	0	2,128
緊急症例	103	5	2	39	0	30	6	128	2	2	1	0	0	318
計	720	214	115	131	68	153	274	273	18	388	75	17	0	2,446



《業績》

(1) 原著、総説、著書 (2011.4～2012.3)

番号整理	題名	著者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	“あなたは素人です”	仲谷 憲	臨床麻酔	Vol. 35 Number 9	1441	2011
2	抗不整脈薬・ α_2 作動薬 神経障害性疼痛	米本紀子 森本昌宏	神経障害性疼痛 克誠堂出版 編集眞下節		257-268	2011
3	ゼロから始める麻酔看護トレーニング(パワーアップ版)	荒井章臣	メディカ出版		モニター	2011

(2) 学会研究会報告 (2011.4～2012.3)

番号整理	演題	発表者	学会・研究会名	年月日
1	緩和ケアチームに依頼された非がん患者症例	杉野幸恵 中川直樹 堺 美紀 仲谷 憲	第16回日本緩和医療学会 学術集会 札幌市	2011.7.28-29
2	第1回関西電力病院ケア研修会(ファシリテーター)	仲谷 憲	関西電力病院 大阪市	2011.7.23-24
3	乳房手術の術後鎮痛における、超音波ガイド下肋間神経皮枝(前皮枝・外側皮枝)ブロックおよび胸筋神経ブロックの有用性に関する後ろ向き研究	久場良彦 土井浩義 井戸和己 仲谷 憲 米本紀子 東 浩司	公益社団法人日本麻酔科学会 第57回関西支部学術集会 大阪市	2011.9.3
4	第7 染色体異常患児の緊急手術に際する全身麻酔経験	山田恵子 仲谷 憲	日本小児麻酔学会第17回大会 大阪市	2011.9.23
5	第2回日生病院緩和ケア研修会(ファシリテーター)	仲谷 憲	日生病院 大阪市	2011.10.1
6	第3回りんくう緩和ケア研修会(企画責任者)	仲谷 憲	りんくう総合医療センター 泉佐野	2011.10.29-30
7	乳房手術の術後鎮痛に超音波ガイド下での肋間神経皮枝(前・外皮枝)および胸筋神経ブロックの有用性	土井浩義 久場良彦 井戸和己 小林俊司 仲谷 憲	日本臨床麻酔学会第31回 大会学術集会・総会 宜野湾市	2011.11.3-5
8	グルカゴンによる血圧低下	仲谷 憲	日本臨床麻酔学会第31回 大会学術集会・総会 宜野湾市	2011.11.3-5
9	地域基幹病院の緩和ケアチームによるがん疼痛管理の現状	米本紀子 森本昌宏	日本ペインクリニック学会第45 回大会 松山市	2011.7.21-23
10	麻酔科領域におけるエコーの新たな重要性	米本紀子 小林俊司 井戸和己 久場良彦 森本 正昭	日本超音波医学会第38回 関西地方会学術集会	2011.11.12
11	区域麻酔下帝王切開術の胎児娩出後の母体においてプロポフォルの就眠時効果部位濃度に影響を及ぼす因子の検討	足立匡司 小林俊司 土井浩義 井戸和己 東 浩司 久場良彦	日本麻酔科学会第58回学術集会	2011.5.19-21

(3) 学術講演 (2011.4～2012.3)

番号整理	演題	発表者	学会・研究会名	年月日
1	蘇生講習会(インストラクター)	仲谷 憲	日本 ACLS 協会 兵庫トレーニングサイト 大阪市	2011.4.30-5.1
2	第4回りんくう緩和ケア講演会(司会) 「在宅緩和ケアと地域連携」出水明 出水クリニック	仲谷 憲	りんくう総合医療センター	2011.6.2
3	第2回泉州がん拠点病院合同講演会(司会) 「がんと共に生きる～医師として、家族として～」	仲谷 憲	市立岸和田市民病院	2011.11.19
4	第5回りんくう緩和ケア講演会(司会) 「症例から学ぶがん患者さんの痛みとマネジメント」	仲谷 憲	りんくう総合医療センター	2011.12.1
5	第5回りんくう緩和ケア講演会 「がんによる消化管閉塞症に対するアプローチ」	人羅俊貴 杉野幸恵 射手矢 中川直樹 堺 美紀 米本紀子 仲谷 憲	りんくう総合医療センター	2011.12.1

番号	整理	演 題	発 表 者	学会・研究会名	年 月 日
6		蘇生講習会(インストラクター)	仲谷 憲	日本 ACLS 協会 沖縄トレーニングサイト 浦添市	2011.12.3-4
7		蘇生講習会(インストラクター)	仲谷 憲	日本 ACLS 協会 兵庫トレーニングサイト 大阪市	2012.1.7-8
8		蘇生講習会(インストラクター)	仲谷 憲	日本 ACLS 協会 兵庫トレーニングサイト 姫路市	2012.2.12
9		蘇生講習会(インストラクター)	仲谷 憲	日本 ACLS 協会 沖縄トレーニングサイト 浦添市	2012.2.18-19
10		蘇生講習会(インストラクター)	仲谷 憲	日本 ACLS 協会 沖縄トレーニングサイト 浦添市	2012.3.10-11

(4) 院内研究活動 (2011.4~2012.3)

番号	整理	演 題	発 表 者	年 月 日
1		末梢神経障害	仲谷 憲	2011. 2. 23
2		ACLS2010 メガコードトレーニング(ICU 看護師、研修医向け)	荒井章臣 仲谷 憲	2011. 6